

北信地域の整備方向

地域農業の特徴と農地の整備状況

○地域農業の特徴

千曲川最下流に位置し、新潟県と接する全国有数の豪雪地帯です。えのき茸などキノコの栽培が盛んなほか、果樹（りんご、ぶどう、もも等）、米、野菜（アスパラガス、ズッキーニ等）、花き（シャクヤク等）、畜産（肉用牛等）など、2市1町3村それぞれが地域の特性を活かし、多様な農業が営まれています。



千曲川沿いに広がる農地

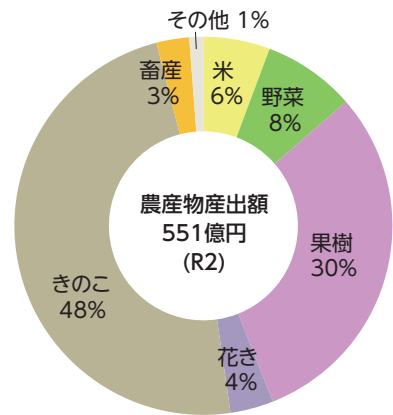
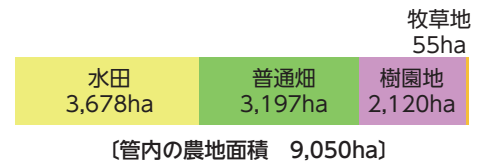
○農地等の整備状況

管内を南西から北東に流下する千曲川沿いの低平地には水田が広がり、高社山南西斜面や千曲川周辺の丘陵地には果樹園が広がっています。また、関田山脈東麓では、国営事業により畑地帯の整備が行われるなど、農業生産基盤の整備が進められてきました。

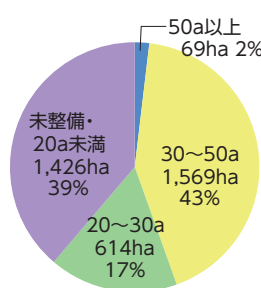
水田の整備については、30a以上の整備率が県内で1位であり、効率的な米の生産を支えています。

畑かんの整備については、中野市、山ノ内町で整備が進んでおり、県内有数の果樹産地となっています。

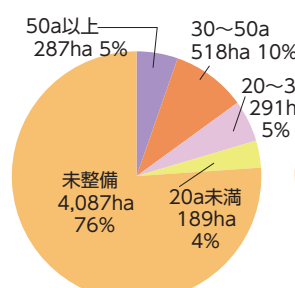
また、管内の基幹水利施設の長寿命化計画が全ての施設で策定されており、計画的に対策を進めています。



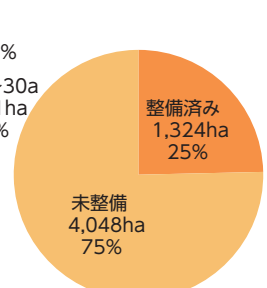
〔水田整備〕



〔畑地整備〕



〔畑かん整備〕



〔基幹的農業水利施設の一覧〕

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	115	25	9	9
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		6	2	9

〔農業農村整備事業による ICT やスマート農業の導入状況〕

水門を自動化・遠隔化した施設	畑かん制御施設 (ローテーション散水制御、集中制御等)
1 か所 赤岩用水	2 地区 1,018ha 中野西部地区ほか
ため池の遠隔監視	
6 か所 大池、大沼池ほか	

地域の現状と課題

- ▷ 管内の農業水利施設は、志賀高原や関田山脈などの山々を水源とし、雪解け水やため池に貯留した用水を長距離引水する施設や、低平地帯の農地には河川からポンプにより揚水する施設があります。それらの施設は老朽化が進んでおり、県、市町村、土地改良区等の役割分担のもと計画的な更新が必要です。
- ▷ 令和元年東日本台風災害や長野県北部地震など大規模な自然災害が発生しており、災害に強い農村づくりが必要です。
- ▷ 農業者の高齢化や減少が進んでおり、施設の管理省力化が求められています。
- ▷ 農業の担い手不足を補うため、新規就農者、女性農業者、定年帰農者など多様な人材が参加した農地、農業用施設の保全管理が必要です。



老朽化により錆びて更新時期を迎えている揚水ポンプ



福島棚田の保全活動

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	4 箇所		9 箇所
○畑地かんがい施設の更新面積	—		858ha

整備方向

- ▷ 基幹的農業水利施設の長寿命化計画に基づく対策を着実に実施するとともに、市町村や改良区等が行う更新に併せて ICT の活用など管理の省力化を進めます。
- ▷ 支線農業水利施設の定期的な点検や更新を支援します。
- ▷ 収益性の高い果樹産地を支える畑地かんがい施設の更新整備を重点的に実施します。
- ▷ 農業経営や地域の実状に応じた区画の拡大など、きめ細やかな基盤整備を支援します。
- ▷ 市町村、土地改良区等が進める農村DXやスマート農業導入の取組を支援します。



スプリンクラーでの散水



スマホで水管理が可能な自動給水栓の試験設置

II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○湛水被害を防ぐ排水機場のポンプ設備の更新	—		4機
○防災重点農業用ため池の地震耐性評価の実施箇所数	9か所		39か所

整備方向

- ▷ 湛水被害を防止するための千曲川沿川の排水機場の更新を重点的に進めます。
- ▷ 防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画に基づく地震・豪雨対策を進めるとともに、長野県ため池サポートセンターと連携し、ため池管理者等への技術的な支援を行います。
- ▷ 市町村等が行う農業用ため池等を活用した流域治水の取組を支援します。
- ▷ 地すべりを防止する対策工事とともに施設の長寿命化を計画的に進めます。
- ▷ 土地改良区等の運営体制強化に向けた取組を支援します。



造成後 50 年を経過し更新が必要となった排水機場

III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○多面的機能を維持・発揮するための活動面積	3,520ha		3,443ha

整備方向

- ▷ 地域ぐるみで取組む農地・農業用施設の保全活動への支援を行うとともに、研修会等により活動組織等の体制づくりを支援します。
- ▷ 中山間地域の特色を生かし、農業を核とした地域づくりに必要な条件整備を進めます。
- ▷ 農業用水が持つエネルギーを発電に活用する市町村や民間事業者の取組を支援します。
- ▷ 棚田を核として、多様な人材が参加する地域振興の取組を支援します。
- ▷ 疏水、ため池、棚田などの農業資産を地域学習や観光に活用する取組を支援します。



地域ぐるみの共同活動による水路の草刈り



用水路の高低差を利用した野沢温泉村の小水力発電施設

TOPICS

用・排水路をパイプ（地中）化 管理の省力化・草刈り労力の低減

中山間地域総合整備事業栄地区の四ツ廻り工区では、条件の不利な上に高齢化が進み、農地の維持が課題となっていた地域で、ほ場の区画を拡大し、機械作業を容易にするとともに、水路をパイプ（地中）化し、水管理の省力化や草刈り労力を軽減しました。

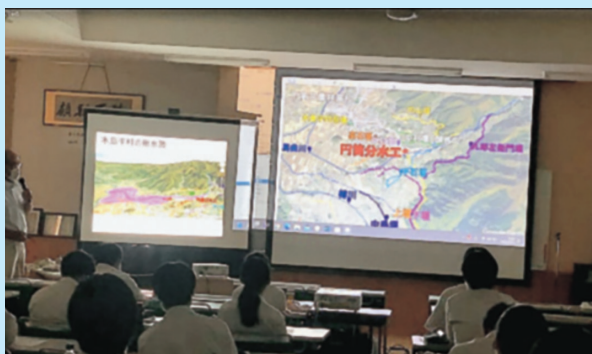


水路がないので、草刈りのときも歯が引っ掛かりませんし、堰ざらいなどの水路管理が少なくなりました。
ほ場の形がよくなって、道路も広がったので、機械作業もしやすくなりました。



次代を担う世代へ 農業資産の魅力発信

地元有識者にご協力いただき、地域にある用水路の役割や歴史を紹介する出前授業を下高井農林高校で行いました。生徒の皆さまからは、「身近にある水路が思ったより奥深くて驚いた」、「農業にとっての用水の重要性がわかった」などの感想をいただきました。



Google Earth を使って視覚的に学習



円筒分水工の仕組みに興味深々の生徒の皆さま